

新しい生活文化を発信する

AIM

主な記事

1～2面 ことしの新卒女子の就職状況
「売り手市場と言うけれど」
私たちの試行錯誤
3面 気がつけば“私”も被害者!?
4面 立川・この人
アイムインフォメーション/編集後記

3/25 NO.15

2006(平成18)年
年3回(8月・12月・3月)発行

発行/立川市女性総合センター
企画・編集/市民編集委員
(〒190-0012)立川市曙町2-36-2
☎042-528-6801 FAX042-528-6805
e-mailアドレス tc-aim5@m-net.ne.jp



上田晶美(うへだあけみ)さん

1994年ハナマルキャリアコンサルタントを設立し大学生の就職、社会人の転職に関する講演、執筆を手がける。年間約30の大学で講演。就職関連の著書12冊。1983年早稲田大学教育学部卒業。

街にフレッシュな新入社員があふれる時期です。久しぶりに好調を伝えられる今年の就職戦線ですが、女性の場合はどうでしょうか。男女雇用機会均等法が施行されて20年。表立った機会の不平等はなくなる一方、派遣など働き方の多様化が伝えられています。

キャリアカウンセラーとして女子学生の就職活動を支援している上田晶美さんに、ホットな新卒女子の就職状況を寄稿していただきました。



多様化する
女性たちの働き方
(写真はイメージです)

売り手市場と言うけれど

ことしの新卒女子の就職状況

ハナマルキャリアコンサルタント 上田晶美さん

で改善した。景気的好転や、2007年の団塊世代の退職問題を背景に企業の採用意欲が高まってきていると見えてい。何かと先行き不透明な昨今にあつては、明るい話題である。

では、その中でも女子に限定すると、どうなのだろうか。数字では、男子は78.9%、女子は75.5%と3.4ポイントの差である。

優秀な女子学生がなぜ?

昨年末、某新聞紙上で「女子学生の就職活動を振り返る座談会」の座長を引き受け、話し合いを持ったところ、厳しい現状告白に、居合わせた記者などから、ため息が出た。

国立大学4年生、帰国子女のA子さん。保険業界を受けたが、総合職も一般職もすべて落ちた。途中から、英語力を生かそうと旅行業界にもチャレンジしたが、時すでに遅し。就職留年して、来年にかけるという。

有名私立大学4年生、運動系サークルのB子さん。鉄道、電力などインフラ系企業を受けてすべてダメ。広告代理店の大手も受けたが力及ばず、夏を過ぎて、小さいミニコミ

ある。しかし、就職指導の現場にいる実感としては、もつとこの差を大きく感じる。

誌の会社に内定した。受けた会社の総数は40社。

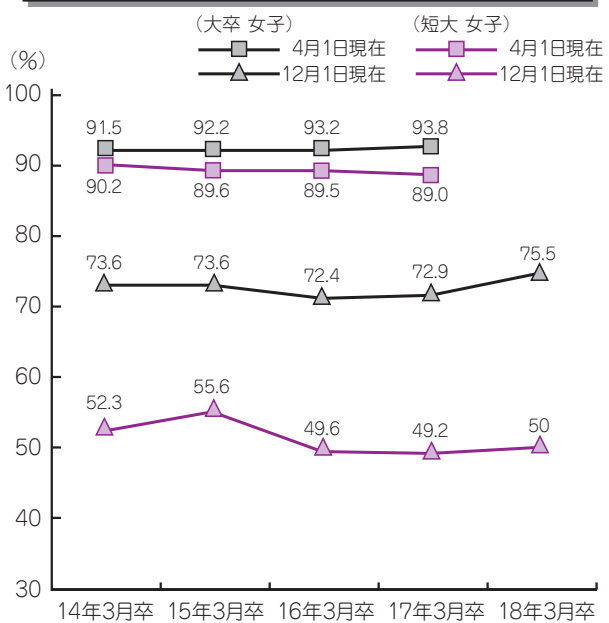
二人とも話し方や受け答えについてはなんら問題なく、笑顔のステキな人という印象だ。

なぜ希望の会社に入れなかったのか?まさにナゾである。これら上位校の人たちですら、女子の就職活動は厳しい状況に変わりはないと思える。

機会均等なネットエントリーだが

現在の就職活動のプロセスは、まずはインターネットから申し込んでいく方法が主流である。これをエントリーと呼ぶ。エントリーの段階では、企

内定(就職)率の推移(大学・短大 女子)



厚生労働省「平成17年度大学等卒業生就職状況調査(平成17年12月1日現在)」より

業は全国のどんな大学でも、男女を問わず受け付ける。まさに男女の雇用機会は均等に見える。これがひとつには女子の感覚を狂わせている元凶かもしれないと思う。

次に来るのが筆記試験やエントリーシート。面接にたどりつくまでに、いくつかの試験を突破しなくてはならない。そこまでは、おそらく機会は均等だ。

問題はその後で、いざ面接に行ってみると、男女の違いをはっきりと突きつけられることになる。

つまり女子はそこまで、男女平等の幻想に引っ張られてしまうということ。一旦エントリーを締め切った企業に再チャレンジすることは難しく、一斉に面接がスタートする4月以降になって、志望業界を変えていくことは困難な状況だ。

先にあげた女子学生二人は、このパターンに陥ったのかも

立川この人

「育て上げ」ネット、若い理事長に聞く



工藤 啓さん
1977年東京生まれ
NPO法人「育て上げ」ネット理事長
立川市高松町2-9-22
生活館ビル3階
☎042-527-6051
著書「ニート支援マニュアル」(PHP出版)

●NPO法人「育て上げ」ネットとは

立川市高松町に事務所を構え、いわゆるニートと呼ばれている若者の支援を行っている団体です。一口にニートと言っても、そこにいたる過程は個人個人、それぞれに形の違う経過や状況があると思われます。そのためここでは事前相談を行い、その人に合った方向性をアドバイスする方法をとっています。

本来この法人の目的は、若者本人の「参加(社会参加)」と「自立(経済的自立)」が達成できることを目標とし、本人や、保護者・関係者へのサポートを実践している団体です。

具体的活動内容は、ジョブトレ(若年者就労基礎訓練プログラム)。地域の農家や商店、企業の協力で、登録参加者に援農作業・企業の補助業務作業・清掃作業等のアルバイト業務に、サポート隊員とともに参加してもらい、月額15万円位を目安に収入を得られるようになるまで訓練が続けられます。その他、カウンセリングやコンサルティング、セミナー、フォーラム、定例会の開催等を行政や企業と連携して行っています。

●立ち上げた動機は?

ビジネスを学ぶためにアメリカに留

学中、欧州ですでに社会問題化していたニートのことを知りました。

イギリスやドイツの実態を調査し、見てまわって感じたことは、これは先進国共通の問題で、日本でも数年後には必ず若年者の失業問題が浮上するだろうということ。ビジネスとして成り立つのではないかと思いました。

帰国後、全国各地でニート問題を提起する講演活動をすると同時に、その支援活動拠点として同法人を立ち上げました。

「立川」を拠点に選んだのは、子どものころから馴染みのあった場所でもあります。交通のアクセスが良いこと、そして繁華街を中心にその周辺に古くからの商店街があり、外側には農家が点在していて、いろいろな時間の流れ方があると感じたことです。仕事を受けるにも訓練にも最適な土地柄です。

●若者や親たちにメッセージを

若者は誰もが自立を望んでいます。親に迷惑をかけたくないし、働いていないことの苦しさも自覚しています。ほんの少しのきっかけをつかむことで、後は自分の力で歩き始めるのです。

あまり真面目に考え過ぎないで! 会社人間になることだけが人生ではない、どう生きるかを大切に考えて欲しいと思います。

そして保護者には、「子どものために」を理由に自分の楽しみを犠牲にしないでほしいですね。親が楽しい生き方をしている姿を見て、子は自分の生き方を学んでいくものなのです。

アイムは男女共生社会の推進と、消費生活の向上をめざす市民活動の拠点です。

アイムインフォメーション

募 集 し ま す 平成18年度、次の6事業について参加者を募集します。詳しくは、女性総合センターにおたずねください。

	事業名	対 象	応募(締切)	応募時の記述内容	内 容
1	情報紙「アイム」編集委員	市内在住・在勤・在学者	はがき(4月末)	住所・氏名・年齢・電話番号・応募動機	年3回発行。編集会議、各10~12回に出席。企画・編集・執筆・原稿整理・校正等、発行にかかわるすべての作業。薄謝あり。
2	アイムフォーラム実行委員	//	はがき(4月末)	//	フォーラムの実施は3月(予定)。会議は原則として夜間。6月ごろ発足
3	くらしフェスタ立川実行委員	会員5名以上の市内のグループ及び個人(市内在住・在勤・在学)	電話(4月末)		企画・運営全体。定例会は原則として月1回。5~6月ごろ発足。実施は2月(予定)
4	「市民企画活動事業」実施グループ	会員5名以上の団体がグループ。会員の半数以上が立川市民であること。	所定用紙(4月末)	代表者名・企画の趣旨・内容等	男女共生社会の実現に向けた企画を、男女共生係と共に実施する。
5	立川市消費者問題研究員	市内在住・20歳以上	電話(随時)		立川市が委嘱して、くらしにかかわる調査・研究を行う。研究会は毎月1回、年間。
6	講 師 派 遣	会員10名以上の団体やグループ。半数以上が立川市民。	所定の用紙(随時)		①男女共生社会の推進や女性を取りまく問題解決のための講座。年間。 ②毎日のくらしの中での疑問や、悪質商法にかかわる予防学習等の消費者講座。年間。

編集後記

今年度も8人の市民編集委員さんと作ってきた「アイム」。新年度はあなたも挑戦してください。

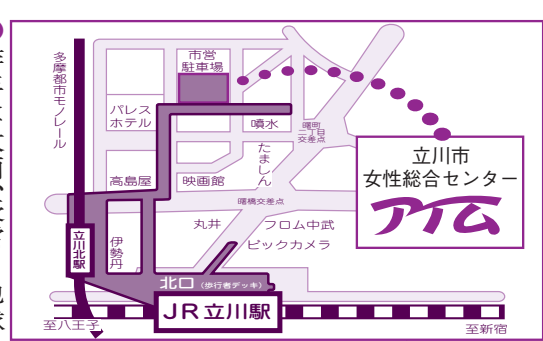
●育児の忙しさに埋もれていた好奇心のアンテナも敏感になり、変動する社会の中、情報活動の重要性を痛感(山田)
●せっかくのお役立ち情報だから楽しい紙面で伝えて、家族みんなで読んでもらいたい。それが私の願いです。(K・T)
●一人ひとりに役立つ情報を発信できた嬉しい。これからも「アイム」が親しまれ、より多くの人たちに広がっていきますように(梅田亜希子)
●実際に読まれてこそお役にたてる情報紙。簡潔明瞭に伝える紙面づくりを心がけつつ、難しさも。(Y)

●私たちの身近な生活にどのようなにかかわっているのかを見つめ、それらに参考になる情報を提供したいという思いで書いています。(T・K)



資源の循環利用を!
「くらしフェスタ立川」でつくった布ぞうり

女性総合センターの市民参加型事業の集大成ともいえる「くらしフェスタ立川(2/18~19)」と「アイムフォーラム(3/5)」が、にぎわいのうちに実施されました。ほぼ1年をかけて準備してきた事業です。企画運営の醍醐味と一緒に味わってみませんか。新年度実行委員の応募をお待ちしています。



●昨年は大雨、豪雪と地球に異変を感じる年でした。若者、高齢者、皆が助け合いながら生活していける社会になるといいですね。(片岡)
●1面写真に登場いただいたトリマーさんはカリスマの異名をとる近づきがたい肩書きの持ち主。会って見たら容姿端麗! 神は2ブツを与えているのね! ああっ

●自分の子どものような年齢の若い女性たちが奮闘している。遠い昔の記憶が重なり合う。諦めずに頑張つて!(y)

■東京都の調査で、比較的安価な金属製アクセサリ類等に鉛が含まれているものがありました。乳幼児が金属製のアクセサリをなめたり口に入れたり、飲み込んだりしないよう、取り扱いに注意しましょう。